

アスカネット [フォトブック]

Asukanet Co., Ltd.

“+ワンコイン(+500円)でクオリティをさらにアップ!”

利用者の声を聞き、徹底した品質追求によって生まれた高品質フォトブックを
わかりやすくキャッチーに訴求して、ユーザーと用途の拡大を実現。

CLIENT Interview

DreamLabo 5000



株式会社アスカネットは飛鳥写真工芸社(1982年設立)を前身として1995年に設立され、写真とデジタル技術を軸にさまざまなサービスを展開する会社です。代表的なサービスのひとつが個人向け高品質フォトブックサービス「MyBook」で、「フォトブック」という名称が広く知られるよりも前の、2000年からスタート。技術の進化とともにいまなお進化を続けています。

2018年9月、アスカネットはそれまでプリントのOEM供給に活用していたインクジェット印刷機・DreamLabo 5000を「MyBook」にも投入。見開きページが180°開くフルフラット仕様のフォトブック「MyBook FLAT」としてラインナップに追加しました。



業界に先駆けて2000年にスタートした個人向け高品質フォトブックサービス「MyBook」のWebサイト。無料の編集ソフト「MyBook Editor」のほか、テンプレートや素材も多数用意されているため、本作りやデザインの知識がなくても、かんたんにフォトブックを作ることができるのが特徴。印刷・製本方法によって6つのラインナップがあり、それぞれに複数のサイズが用意されている。

- ・FLAT(フルフラット): 3,900円～
- ・ART-HC(ハードカバー): 2,100円～
- ・ART-SC(ソフトカバー): 1,400円～
- ・DX(ハードカバー・糸綴じ): 2,700円～
- ・シンプル(ハードカバー・編集不要): 2,800円
- ・MINI(ハードカバー・76mmスクエア): 900円

DreamLaboは「MyBook FLAT」のプリントに採用されており、①W216mm×H216mm/②W266mm×H266mm/③W186mm×H263mmの3種のサイズで展開(外寸)。
<https://www.mybook.co.jp/>

およそ20年にわたりフォトブックプリントに携わってきたアスカネットは、DreamLaboをどのように評価し、どう活用しているのでしょうか。フォトパブリッシング事業部 コンシューマ営業グループ 課長 巻田秀聡さん、フォトパブリッシング事業部 プロダクトセンター 課長 畑中健吾さんにお話を伺いました。

— 「MyBook」のラインナップにフルフラット仕様の「MyBook FLAT」を追加したきっかけは何だったのでしょうか。

畑中健吾・B to Cの「MyBook」は中央部分が見えづらい商品が多かったのですが、お客さまから「フルフラット仕様のフォトブックが欲しい」という要望をいただいたのがきっかけです。営業部門からも同じような要望が聞かれるようになったことを受け、2016年から開発に着手しました。
巻田秀聡・なぜフルフラットがよいかというと、無線綴じの場合、ノド部分は写真が見えなくなるんですね。被写体を中央に置く、いわゆる“日の丸構図”の人物写真を見開きでレイアウトすると、どんなに本を開いても顔がゆがんでしまいますし、卒業アルバムの集合写真などは2分割してレイアウトせざるを得ませんでした。フルフラットならばそうしたレイアウトの制限がなくなるというのが営業部門としては大きかったですね。

— 「MyBook FLAT」の出力にDreamLaboを使うことになった経緯を教えてください。

畑中・B to B 向けのラインでは2012年からF

ルフラットの商品を提供していたので、フルフラット製本のノウハウはすでにありましたが、一方で課題だったのがプリント品質でした。それまでのプリンタ出力では、月に数件ですが「暗い」「粗い」という声をいただくことがあったのです。そこで選択肢に上がったのが、2015年から使用していたDreamLaboです。もともとフォトブック用途で導入したものではありませんでしたが、当初から品質は高いと感じていましたし、社内の色評価チームからは従来の印刷機と比べてDreamLaboのほうが優れているという検証結果も上がっていました。これならば従来のフォトブックの色に満足されていないお客さまにも納得いただけるのではないかと。

巻田・「MyBook」のお客さま、つまりコンシューマーというのは一括りにできないくらいに幅が広いんですね。パソコンを触ったことがない方から「フォトブックを作りたいんです」という問い合わせがある一方、プロの方から「ディスプレイのモニタをこう設定してれば色は合いますか?」という問い合わせもいただきます。色や品質についても、1,000人いれば1,000通りの要望があるわけですが、すべてに合わせることはできません。となれば、私たちにできるのはいただいたデータをそのまま再現すること、これがベターなんです。不特定多数に向けて、「この人たちが求めている色は何だろう」と考えたとき、既存の印刷機よりもDreamLaboのほうが多様なニーズに応えられると感じたのも採用の理由です。

畑中・ディスプレイに近い再現ができるという



①210S
内寸: W210mm×H210mm
外寸: W216mm×H216mm



②260S
内寸: W260mm×H260mm
外寸: W266mm×H266mm



③263T
内寸: W180mm×H257mm
外寸: W186mm×H263mm



すべてのページが180°開くフルフラット仕様。中心の折り筋もわずかで写真を損なうことない仕上がり



高級感のある仕上がりにするため、背の内側には花布を追加。このほかにも、商品価値を高めるための数々の工夫が施されている

のも導入理由のひとつでした。今はPCにしてもスマホにしてもディスプレイの解像度が非常に高いですよね。お客さまは発注するまでに、スマホなどで撮影した写真をきれいなディスプレイで見えていますから、印刷物もその通りに上がってくるものだろうと思うでしょう。しかし、印刷はCMYKですから、どうしてもディスプレイに比べてくすみます。このギャップをどうにかして埋めたいと思っていました。DreamLaboは現状、最もディスプレイに近い色が出せていると思います。

— 「MyBook FLAT」発表後、お客さまの反応はいかがでしたか?

巻田・お客さまを対象にしたアンケートでは、実に9割近いお客様に「満足」とお答えいただくことができました。これは過去に前例のない、驚異的な数字です。サービス当初は大規模なキャンペーンを打っていたこともあり、想定以上の注文をいただきましたが、期間が終わっても注文数は変わらず、既存のお客さまだけでなく、新規のお客さまからのご注文も増えています。当初は、「子ども」をターゲットに想定していましたが、お客さまのほうが先に「旅行」「ウェディング」「卒業アルバム」などの用途に対応したという印象ですね。



工場内に設置されたDreamLabo。すぐ隣には製本設備が整い、出力から製本までの工程をコンパクトに完結。設備はほぼすべてが自社社様にカスタマイズされている



見開き中央・ノドを気にせずに写真がレイアウトできるのもフルフラット仕様ならではのメリット



— 光沢タイプの用紙+3種のサイズという組み合わせはどのように決めたのでしょうか。

巻田・試作品を見たときに「これは良い!」っと実感しました。ただ、いくら良い商品でも、サイズによって価格がバラバラでわかりにくいと、お客さまが迷ってしまいます。

そのため、いかにわかりやすく、キャッチーに訴求するかを検討して、「従来の同じサイズの商品からワンコイン(+500円)で高品質なフォトブックが作れる」ということを訴求のポイントにして、今のラインナップで提供することにしました。

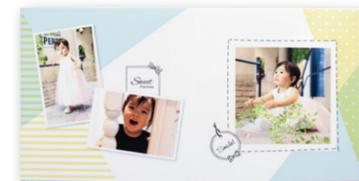
畑中・現場としては、その価格条件に合う製造方法を考えていったのですが、検討にあたって製本・加工面で苦労したことはほとんどありません。むしろ花布を追加するといった、当初のオーダーにはないような工夫を加えたり、どうしたらより良いかたちになるかを、リリース後も常に追求しています。「新しいことをやりたい」という人がとにかく多い現場なので、早く次の新しいものを出したくてウズウズしているくらいです(笑)。

— DreamLabo導入にあたって、また実際に運用してみて苦労されたことはありますか?

畑中・現場の抵抗感はまったくなく、むしろ安定性というメリットのほうが大きかったですね。これまでの印刷機ではプリントを常時チェックして、色のブレを見なくてはならず、一度ずれると機械を調整して再プリントを必要がありました。DreamLaboはいい意味でほったらかしていい。人件費を含む管理コストが大幅に下がりましたし、製本予備もゼロで運用できています。

巻田・再注文の場合、プリントの色が自社基準内であっても、その基準内でわずかに色の違いが出る場合がありますが、それを説明して、納得していただくのは難しかったです。DreamLaboではそうした変化が起きにくいのはメリットですね。

DreamLabo 5000
CLIENT Interview



「MyBook Editor」に用意されているテンプレートや素材を使えば、写真を用意するだけでデザイン性の高いフォトブックが作成できる

— DreamLaboに感じる可能性と、今後の活用予定についてお聞かせください。

巻田・判型や用紙の拡充は検討していきたいですね。並行して、フォトブックに限らない、ほかのアウトプットも考えています。

畑中・従来の「MyBook」とサイズ、体裁を揃えたいという要望もいただいているので、フルフラットのソフトカバーも検討しています。

巻田・あとはスマホからのアウトプットですね。スマホだと写真がよりあざやかに見えるのですが、DreamLaboならそのギャップは少ないと考えています。ただ、独りよがりになってはいけませんので、お客さまの声にこまめに耳を傾けて、ニーズにリンクするかたちで提供したいと考えています。



巻田秀聡
Hideaki Makida
株式会社アスカネット
フォトパブリッシング事業部
コンシューマ営業グループ
課長



畑中健吾
Kengo Hatanaka
株式会社アスカネット
フォトパブリッシング事業部
プロダクトセンター
課長

株式会社アスカネット/広島県広島市安佐南区(本社)、千葉県千葉市美浜区(関東支社)、東京都港区(東京支社・ショールーム)。「思いをかたちに」という経営理念のもと、フォトブックサービスを展開する「パーソナルパブリッシングサービス」、遺影サービスを展開する「メモリアルデザインサービス」、空中ディスプレイサービスを展開する「エアリアルイメージング」の3つの事業を手がける。ユーザー目線に立った商品開発と徹底した品質追求により、コンシューマーだけでなく写真家からも高い評価を得ている。